



前三和中学校
湯田明美主幹教諭の
実践

(現職町中学校教頭)

※平成30年度の
実践発表より

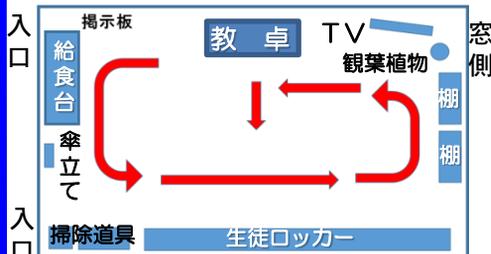
研修紹介

学級づくりの三つの柱

新しい時代「令和」に入りました。ミニレターも、先生方に役立つ情報を提供できるよう、さらに内容を充実させていきます。今年度もよろしくお願ひします。さて、新年度が始まって一か月が経ったこの時期、もう一度自身の学級経営を振り返ってみるのはいかがでしょうか。本号では、一人一人を大切にしたい学級づくりに向けた「三つの柱」の実践例を紹介します。

①環境を整える

「ぐるぐるスクール」



毎朝、毎放課後に、教室の中を見まわります。特に、ごみ箱の中をチェックすると、小さな変化にも気付くことができます。このような気付きから、生徒の一日の生活や過ごし方が見えてきます。

②授業を大切にす

「関わる場の設定」



日々の授業を着実に積み重ねていくことが、学級経営の充実にもつながります。そのため、授業の中で、生徒同士が積極的に関わりをもてる場を設定します。

③仲間をつなぐ

「学級通信の活用」



「学級通信」で、授業や学級の様子、生徒の作文や生徒自身がたてた目標等を紹介します。生徒同士がお互いの思いを知ることによって、仲間意識を高めることができます。

「掲示板の活用」



生徒たちが主体的に表現するための掲示スペースを設けます。生徒同士で伝えたいことを自由に書き込み、情報を共有できるようにします。

「授業の振り返りを生徒自身で」



SHRの時間に、生徒主体で各授業の振り返りをPDCAサイクルで行います。授業中の取組や姿勢等 (Do) がどうだったか、教員から評価 (Check) を受けた後、次はどのように改善すればよいのかをみんなで考えます (Action・Plan)。そして、次の授業で実際に行動します (Do)。これを続けることで、行事等の企画・準備・運営を自ら進んでできるようになります。

「常に学級目標を目指して」

勇気 団結 絆



学級目標には、一年間みんなで大切にしていけることがめられています。そのため、学校行事や生徒会行事等、機会ある度に、学級目標に立ち返り、振り返ります。生徒たち自身で振り返ることで、さらに学級をよりよくしていこうとする主体性がみられるようになります。

<校長先生から> 三つの柱は、三和中学校のスタンダードで、毎年少しずつ改善しながら実践しています。学校全体で取り組むことで、先生方の横のつながりや連携がより強くなりました。また、全体で目指す姿をそろえているので、だれが担任をもって情報交換しながら安心して取組を継続することができます。

<同僚から> 実際に取り組んでみて、自分自身が「学級目標」を振り返っていなかったことに気づきました。取組を通して、生徒自身が考え、自ら動くようになってきました。今年度も、この三つの柱を大切にしながら、学級経営を行っています。